

本品はにおいがなく、味はないが粘滑性である。

確認試験

(1) 本品の粉末 1 g に水 50 mL を加えるとき、ほとんど均等のやや混濁した粘性の液となる。

(2) 本品の粉末に希ヨウ素試液を加えて鏡検するとき、青色を呈するでんぶん粒の少数を認める。

純度試験 カラヤゴム 本品 1 g に水 20 mL を加え、煮沸して粘稠性のある液とし、これに塩酸 5 mL を加え、更に 5 分間煮沸するとき、液は淡赤色～赤色を呈しない。

灰分 4.0 % 以下。

トラガント末

Powdered Tragacanth

TRAGACANTHA PULVERATA

本品は「トラガント」を粉末としたものである。

性状 本品は白色～帯黄白色を呈し、においはなく、味はないが粘滑性である。

本品をオリブ油又は流動パラフィンに浸して鏡検するとき、多数の有角性の破片からなり、少量の円形又は不整形薄片、少量のでんぶん粒を認める。でんぶん粒は球形～だ円形の単粒、ときに 2～4 個の複粒で、単粒の径は 3～25 μm である。本品は水にあうと膨化して変形する。

確認試験

(1) 本品 1 g に水 50 mL を加えるとき、ほとんど均等のやや混濁した粘性の液となる。

(2) 本品に希ヨウ素試液を加えて鏡検するとき、青色を呈するでんぶん粒の少数を認める。

純度試験 カラヤゴム 本品 1 g に水 20 mL を加え、煮沸して粘稠性のある液とし、これに塩酸 5 mL を加え、更に 5 分間煮沸するとき、液は淡赤色～赤色を呈しない。

灰分 4.0 % 以下。

貯法 容器 気密容器。

歯科用トリオジンクパスタ

Dental Triozinc Paste

本品は「パラホルムアルデヒド」、「チモール」、無水硫酸亜鉛及び「酸化亜鉛」を含む散剤と、「クレゾール」、「カリ石ケン」及び「グリセリン」を含む液剤とからなる。用時両者の適量を研和して使用する。

製法

(1) 散剤

パラホルムアルデヒド、細末	10 g
チモール、細末	3 g
硫酸亜鉛	9 g
酸化亜鉛	82 g
全量	約 100 g

「硫酸亜鉛」をあらかじめ約 250 °C で加熱して無水硫酸亜鉛とし、冷後、細末としてこれに「チモール」、「パラホルムアルデヒド」及び「酸化亜鉛」を均等に混和して製する。

(2) 液剤

クレゾール	40 g
カリ石ケン	40 g
グリセリン	20 g
全量	100 g

「カリ石ケン」を「クレゾール」及び「グリセリン」の混液中に溶かして製する。

性状 散剤は白色微細の粉末で、特異なにおいがあり、液剤は黄褐色～赤褐色澄明濃稠の液で、クレゾールのにおいがある。

貯法 容器 気密容器。

トロンビン

Thrombin

本品はヒト又はウシの血液から製したプロトロンビンに、カルシウムイオンの存在で、トロンボプラチンを作用させて製し、滅菌して凍結乾燥したものである。

本品は定量するとき、表示されたトロンビン単位の 80～150 % を含む。

本品 1 mg は 10 単位以上を含む。

性状 本品は白色～淡黄色の無晶形の物質である。

本品 500 単位当たりの量を生理食塩液 1.0 mL に溶かすとき、1 分間以内に澄明又はわずかに混濁して溶ける。

乾燥減量 3 % 以下 (0.05 g, 減圧, 酸化リン (V), 4 時間)。

無菌試験 試験を行うとき、これに適合する。

定量法

(1) フィブリノーゲン溶液 フィブリノーゲン約 0.03 g を精密に量り、生理食塩液 3 mL に溶かし、トロンビン約 3 単位を加えて、時々振り混ぜながらじゅうぶんに凝固させ、析出した凝固物質を分取し、洗液に硝酸銀試液を加えても混濁しなくなるまで水でよく洗い、105 °C で 3 時間乾燥し、質量を量り、凝固物質のパーセント (%) を計算する。ここに得たパーセント (%) から別にフィブリノーゲンを凝固物質の量が 0.20 % になるように生理食塩液に溶かし、0.05 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液(必要ならば、0.5 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液を用いる)で pH を 7.0～7.4 に調整した後、0.10 % となるように生理食塩液を加える。

(2) 操作法 トロンビン標準品を生理食塩液に溶かし、この液 1 mL 中に 4.0, 5.0, 6.2 及び 7.5 単位を含む 4 種の標準溶液を製する。あらかじめ 20～30 °C の間の任意の温度で ±1 °C に保った標準溶液 0.10 mL を内径 10 mm, 長さ 100 mm の小試験管に正確に量り、これにあらかじめ同じ温度に保ったフィブリノーゲン溶液 0.90 mL をピペットを用いて吹き込み、同時に秒時計を動かし、穏やかに振り混ぜながら、最初にフィブリンの凝固が起こるまでの時間を測定する。4 種の標準溶液につき、それぞれ 5 回ずつ測定を行い平均値を求める。ただし、5 回の測定で、最大と最小との差が平均値の 10 % 以上のときは、実験をやり直す。標準溶液の濃度は、凝固時間が 14～60 秒の範囲内で適当に変えてよい。測定は前記と同じ温度で行う。次に本